



《長い髪の女》 1933年

美私は

Nakayama Iwata  
Retrospective

美しいものが  
好きだ。

写真家  
中山岩太

レトロ・モダン  
神戸

- |       |  |
|-------|--|
| 会 期   | 平成22年4月17日(土) - 5月30日(日)   |
| 休 館 日 | 月曜日(ただし、5月3日(月・祝)は開館・5月6日(木)は休館)   |
| 開館時間  | 午前10時 - 午後6時(金・土曜日は夜間開館: 午後8時まで)入場は閉館30分前まで  |
| 会 場   | 兵庫県立美術館 企画展示室  |
| 主 催   | 兵庫県立美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会   |
| 後 援   | 兵庫県、兵庫県教育委員会、神戸市、神戸市教育委員会  |
| 特別協力  | 中山岩太の会、東京都写真美術館、芦屋市立美術博物館、ラボテイク  |
| 協 賛   | ライオン、清水建設、大日本印刷  |
| 協 力   | 神戸市立博物館  |
| 観 覧 料 | 一般1,200(1,000)円、大学生900(700)円、高校生600(500)円、65歳以上600円、<br>中学生以下無料<br>( )内は、前売り料金及び20名以上の団体割引料金。障害者の方とその介護の方(1名)は、<br>当日料金の半額(65歳以上を除く。)<br>コレクション展の観覧には別途観覧料金が必要(本展とあわせて観覧される場合は割引あり。) |

## 開催趣旨

兵庫県ゆかりの写真家である中山岩太（1895-1949）は、日本の芸術写真の地位を確立した写真家のひとりです。福岡・柳川に生まれた中山は、1915（大正4）年、東京美術学校（現在の東京芸術大学）に新設された臨時写真科に入学し、同校卒業後はニューヨークやパリなど海外で写真の研鑽を積むとともに、当時の欧米の最先端の美術運動を経験しました。帰国後は芦屋を拠点とし、「芦屋カメラクラブ」を創設し新興写真のジャンルで活躍するとともに、神戸大丸で写真スタジオを開設、ポートレート写真の名手としてその名を知られました。また、コマーシャル写真や観光写真、スタジオ写真の分野でも、日本の写真史に残る先鋭的な表現を多く残しました。

本展では、中山岩太の業績を二部構成によって振り返ります。

**第1部「甦る中山岩太 - モダニズムの光と影」**では、銀塩写真を歴史的遺産として後世にどのように伝えるかということに着目し、中山岩太の会と芦屋市立美術館が中心となって調査・研究してきた「残されたガラス乾板」から新たにプリントを制作し、展示します。

**第2部「レトロ・モダン 神戸 - 中山岩太たちが遺した戦前の神戸」**では、神戸をテーマとしたヴィンテージプリントを、その撮影地をたどりながら様々な資料とあわせて展示し、戦前のモダン都市神戸の姿を検証します。また、当時の神戸を描いた作品や市民が撮影した16mm フィルムなどを紹介することにより、懐かしき神戸風景を再構成します。

ヴィンテージプリントとは、作者の生前時、あるいはその当時にプリントされたもの

### このプレスリリースについてのお問い合わせ

兵庫県立美術館

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1 - 1 - 1

<http://www.artm.pref.hyogo.jp>

【取材・写真提供に関すること】 営業・広報グループ

TEL:078-262-0905（直） FAX:078-262-0903

【企画内容に関すること】 学芸員 相良 周作・小林 公

TEL:078-262-0909（直） FAX:078-262-0913

展示内容

第1部「甦る中山岩太 - モダニズムの光と影」

(東京都写真美術館で平成20年に開催された展覧会と同内容)

ニュープリント 約40点

《長い髪の女》など

ガラス乾板など 約15点

《福助足袋》、《上海からきた女》、《イーヴ》、《デモンの祭典》など

ヴィンテージプリント 約80点

《ポートレート(女の顔)》、《神戸風景(トンプソン商会)》など

関連資料 約15点

写真雑誌『光画』など



《アダム》1940年



《神戸風景(雨)》1939年頃



《ポートレート(女の顔)》 1920-25年



《神戸風景(トンプソン商会)》1939年頃

## 第2部「レトロ・モダン 神戸 - 中山岩太たちが遺した戦前の神戸」

当館で寄託を受けている中山岩太のヴィンテージプリントのうち、神戸の風景を記録したいわゆる「神戸風景」の連作をもとに、それらに記録されたモチーフを題材にした、ほかの作家たちによる絵画・版画作品をあわせて展示します。

また当時発行された観光用パンフレットなどの資料類も紹介し、戦前の「モダン都市神戸」のイメージが形成される過程を浮き彫りにしていきます。

### 神戸大丸と中山岩太

1930（昭和5）年に、神戸大丸発行の『神戸店友』に口絵写真を掲載してから、中山と神戸大丸との関係は始まり、やがて1936（昭和11）年には大丸写真室を担当します。神戸・元町でのモダン文化を彩った当時の印刷資料などを紹介し、その中で中山の役割を振り返ります。

### 神戸みなとの祭と中山岩太

現在の神戸まつりのルーツとなる「神戸みなとの祭」は、1933（昭和8）年に第1回が開催されました。市内各所で華やかに繰り広げられたこの催しに際して、中山はポスターや祭の光景を元にしたフォト・モンタージュを制作します。これが、後に展開される中山による「神戸風景」連作の嚆矢となります。中山のヴィンテージプリントとあわせて、その当時の印刷資料を紹介します。

### 中山岩太と「神戸風景」

1933（昭和8）年に発足したとされる神戸市観光課では、さまざまな広報印刷物を作成・配布し、現在の「モダン都市神戸」のイメージ化を図っていきました。この神戸市観光課より委嘱され制作されたのが、中山の「神戸風景」です。中山の「神戸風景」のヴィンテージプリントを、可能な限りその撮影箇所を特定するとともに、中山と同時代に活躍した他の美術家による絵画・版画作品などをあわせて紹介します。また当時の神戸市観光課が発行した当時の印刷資料も紹介します。

### 映像に見るレトロ神戸

当時の映像マニアの市民が撮影した16mmフィルムなどをDVD化のうえ紹介し、映像を通じて懐かしき神戸風景を顧みます。

### もうひとつの「神戸風景」 - 「流氓ユダヤ」と戦中から終戦後にかけての神戸

中山が一連の神戸風景を手がけてから数年後、太平洋戦争が勃発、第二次世界大戦に突入します。そのさなかの1941（昭和16）年、ヨーロッパでの迫害を逃れた多くのユダヤ人たちが神戸に押し寄せてきました。その様子を、中山と同時代に関西で活躍した写真家の安井仲治が、丹平写真倶楽部のメンバーらとともに撮影したものが、「流氓ユダヤ」の連作です。安井や同じく写真家の椎原治らによる「流氓ユダヤ」の写真作品を紹介し、あわせて、中山による神戸の空襲の様子や、廃墟となった神戸の風景を紹介することで、同時代の神戸が持つもうひとつの側面を明らかにします。

### 出品作家

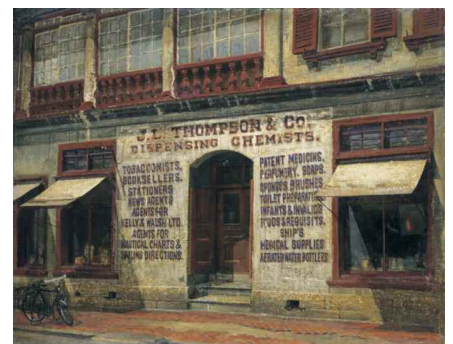
- ・絵画：金山平三、小磯良平、小松益喜 など
- ・版画：川西英 など
- ・写真：安井仲治、椎原治 など



《ポートレート（ヘレン本田）》1938年



《神戸風景（トアロード）》1939年頃



小松益喜《英三番館》1939-40年兵庫県立美術館蔵

## 関連事業

- (1) 連続レクチャー「“レトロ・モダン 神戸”を語る」(全3回)  
第1回「戦前のアマチュア映像作家が捉えた神戸」  
平成22年5月2日(日)  
講師：森下 明彦 氏(映像研究家)  
第2回「変貌する都市風景 1930`s~50`s 昭和期神戸の光と影」  
平成22年5月9日(日)  
講師：梅宮 弘光 氏(建築史家・神戸大学大学院准教授)  
第3回「懐かしの絵葉書~モダン神戸の原像」  
平成22年5月23日(日)  
講師：石戸 信也 氏(絵葉書研究家)  
いずれの回も開始時刻は14時から(約90分)  
会場：レクチャールーム(定員100名)  
参加無料(ただし展覧会チケットの半券が必要です)
- (2) 学芸員による解説会  
平成22年4月24日(土)(美術館の日開催日)、5月8日(土)、5月22日(土)  
いずれも開始時刻は17時から(約30分)  
会場：レクチャールーム(定員100名)  
参加無料
- (3) ミュージアム・ボランティアによる解説会  
会期中の毎週日曜日11時から(約15分)  
会場：レクチャールーム(定員100名)  
参加無料
- (4) こどものイベント「写真の秘密にせまろう」  
平成22年5月15日(土)10時30分から15時30分まで  
会場：アトリエ2  
要申込み、有料  
お問い合わせ：078-262-0908

### 中山岩太の会について

中山岩太の遺族による中山岩太作品の保存会。写真作品、ネガ、資料は、兵庫県立美術館、芦屋市立美術博物館、東京都写真美術館に寄託されている。

## 広報用画像について

このプレスリリースに掲載されている画像データをプレス掲載用にご用意しております。別紙の申込書をご使用ください。

# 写真家 中山岩太「私は美しいものが好きだ。」

レトロ・モダン 神戸

NAKAYAMA IWATA RETROSPECTIVE

広報用写真や読者・視聴者プレゼント用招待券(最大 10 組 20 名まで)もご用意しております。ご希望の場合は、ご請求ください。

営業・広報グループ 行

**F A X ( 0 7 8 ) 2 6 2 - 0 9 0 3**

希望写真(作品名)	
貴社名	
媒体名	新聞・雑誌・ミニコミ TV・ラジオ・インターネット
ご担当者名	
ご住所	〒
電話番号	( )
F A X 番号	( )
メールアドレス	@
URL	
掲載・放送予定日	
写真到着日希望	
読者・視聴者プレゼント用招待券(最大 10 組 20 名まで 本展を媒体でご紹介いただける場合に限ります)	組 名分希望

写真データ使用は、本展覧会の紹介用のみとさせていただきます。それ以外での使用はできませんので、ご了承ください。

本展に関する記事をご掲載いただきました際には、お手数ですが、掲載誌・紙または記録媒体(VTR/DVD)などを、下記宛にお送りくださいますようお願い申し上げます。

本展覧会会場の取材、撮影をご希望の場合は、下記までご連絡ください。事前にご連絡のない取材、撮影はお断りいたします。

兵庫県立美術館 営業・広報グループ  
〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通 1-1-1  
電話(078)262-0905